

【概要】

多職種連携は、保健・医療・福祉の現場において、対象者・家族のQOL(Quality of Life:生命・生活・人生の質)の向上のために対象者・家族と多職種がケアや社会的課題の解決を通じて協働することである。現代の複雑で多様化した保健・医療・福祉の課題を持つ社会において、一人の専門職がその知識や能力を駆使して、単独で課題を効率的に解決することは困難である。互いに異なる知識・能力をもつ複数の専門職が協働することが必要とされる。

本講義では、多職種連携の実際の場面から、対象者・家族の全体像について話し合い理解することを通して、保健・医療・福祉の分野における多職種連携のあり方を学ぶ。具体的には、地域包括ケアにおける専門職の活動を、多職種連携による対象者理解の観点に注目しながら同行訪問・オンラインで見学する。対象者理解を進めるために、専門職、対象者・家族に対してインタビューする。多職種が連携して対象者の全体像をとらえる。得られた情報をもとに自分の専門とは異なる学科の学生とともにディスカッションを行い、多職種連携に関する考えをまとめる。

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による